

Title	史學研究會例會報告；國史談話會報告；東洋史談話會報告；西洋史研究會報告
Sub Title	
Author	
Publisher	三田史学会
Publication year	1952
Jtitle	史学 Vol.26, No.1/2 (1952. 12) ,p.145- 146
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	彙報
Genre	Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00100104-19521200-0145

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

礎石を存し、後者はその高欄擬寶珠に「慶長十二年丁未十月日云々」とある銘の通り、細部の手法はよく桃山時代の風格を示している。

十月二十六日、一行は二分して、一は歸路につき、他は白石を経てバスで高倉に出、高藏寺を訪ねた。全く交通の不便なところである。高藏寺の草創については審かではないが奥州藤原氏を關係があつたらしい。方三間の阿彌陀堂で、太い柱、大きな舟肘木、そして茅葺、素朴にして力強い安定を造る。藤原時代末期の様式を傳えているという。平泉などの裝飾に重きを置いた華奢な建築とは極めて對照的である。本尊の阿彌陀如來像は丈六で堂とほぼ同時代の作と思われる。傍ら下同形の破損像があつてこれから當時の造像過程の一端を窺うことが出來た。角田・中村を経て平に出て宿泊。

十月二十七日、先づ白水の阿彌陀堂を訪ねる。これに秀衡の妹徳尼の建立という。六三間の寶形造。外觀は屋根の勾配が急で露盤の小に失するの感。須彌壇上中央に阿彌陀その左右に觀音勢至そして二天といった配置は平泉と同じで、諸佛自體も中尊寺のそれに似ている。次いで大甕・常陸太田を経て金郷の薬師を訪ねる。縁起を尋ねればこれも奥州藤原氏につながる。尊容・台座など平泉のそれに似て、所謂定朝様である。

平泉・白水そして金郷の諸像はそれぞれ共通する一様式を示し

こゝに當時の一の東北文化圏といったものが想定されるわけで、金郷はその南端に位する。中央に於いて社會の中世的推移に貴族文化の基盤が失われつゝあつたとき、社會分化の未だ十分ならずなお多くの古代的要素をとめていた東北に地を求めて、新しい貴族文化圏が成立したのであつた。しかそれは單なる中央文化の移植に止まらず東北独自の地方的要素を包含するものであつたことは最近屢々指摘される所である。そしてこの文化も新しい武家勢力の進出の前にやがて凋落していつたのであつた。終に旅行中終始種々の便宜を計つて勞を惜まなかつた方々に厚く御禮申し上げる次第である。(志水正司記)

史學研究會例會報告

第四〇八回例會

昭和二十七年九月二十日午後三時

於六番教室

その後の法隆寺問題

淺子勝二郎氏

クロヴィス王のカトリック改宗

萩原 要君

マグナ・カルタの封建的性格

杉原 義文君

第四〇九回例會

昭和二十七年十月十六日午後三時

於七番教室

合成樹脂による遺物保存法について

清水 潤三氏

第一型式銅鑿の分類と年代
宇佐八幡に關する一考察

野口 義磨君
佐 志 博君

第四一〇回例會

昭和二十七年十月二十九日午後三時 於六番教室

ドイツハンザのスウェーデン貿易
南蠻船について
高村 象平氏
上村 俊郎君

國史談話會報告

第四八回例會

昭和二十七年十一月二十六日午後三時 於中等部理科室

アメリカより歸りて
西岡 秀雄氏

東洋史談話會報告

昭和二十七年十二月五日午後一時

於第一研究室辭書室

太平洋國亂前後に於ける社會狀態
イスラエルに於ける十二族の結合について
桑 田 勉君
牧野 信也君

西洋史研究會報告

昭和二十七年十月二十日午後三時

於九番教室
F・V・ハルデンベルクの
ヨーロッパ協同體思想
シヤロバンの成立

本郷廣太郎氏
林 寬 樹君